

～あかるく なかよく たくましく～

○憂鬱な日の過ごし方

近年、梅雨の在り方が大きく変化しています。「線状降水帯」や「記録的短時間大雨情報」という聞き慣れない言葉が連日のようにテレビの天気予報から、聞こえてきます。また、九州や中国、四国地方では、豪雨による大きな災害がもたらされています。私は、自分と同じ日本という地で暮らしている多くの方々が、様々な苦しみを抱えながら生活しているという現実を受け止めきれずにいます。

さらに、17日（土）、私が憧れる俳優の方が亡くなったというニュースが流れてきました。そのためか、この土日は、自分でも驚くほど、心が沈んでいました。

新型コロナウイルスの感染拡大や豪雨災害に関する報道などを通して、今、私たちは、人の「死」と向き合う時間が多くなっています。そのため、自分が思う以上に、心が疲れ、憂鬱になりがちです。

そんなときは、無理せず、今の自分にできることを見付けて、生活していくことも必要だと感じています。皆さんも、どうぞ、御自愛ください。



日曜日、雨上がりの空を見上げると、太陽の光が輝いていました。日常の中にあるささいな喜びや幸せを見付けていくことも大切ですね。

○子供に尋ねること～子供と関わるための第一歩～

6月下旬の雨降りのある日、小学部1年生の中庭から子供たちや先生たちの楽しそうな声が聞こえてきました。「雨降りの日に何をしているのだろうか?」と思い、のぞいてみると、Aちゃんと先生が、泥まみれになって遊んでいました（写真①）。

初め、先生は少し離れた場所から「楽しいね。」と話し掛けていましたが、少しずつ、Aちゃんに近付き、最後は、Aちゃんと同じように泥水の中に手を入れました。その瞬間、Aちゃんは、先生の顔を見て、ニッコリとほほ笑みました。



写真① 一緒に泥の感触を味わっているのかな?



写真② 先生の掛ける水が雨のように、傘に降り注いでいました

B君は、雨が止んでも傘を差しながら中庭を歩いていました。先生は、B君が差す傘に向かってホースでシャワー状の水を掛けました（写真②）。すると、B君は、うれしそうに声を出して笑い、「あめだー。もっと、もっと。」と言い、先生に向かって自分の差す傘を見せていました。

Aちゃんは、泥が手に触れる感触を、B君は、傘に降り注ぐ水の音や感触を楽しんでいたのだと思います。大人が、「あなたは、何が楽しいの?」、「何を感じ、思っているの?」などと、子供に尋ね、その子の気持ちに合わせて関わることで、子供との距離が縮まるのだと感じました。今後も、子供のことを「分かりたい」という気持ちを大切にして、指導を行っていきたいです。（文責：小学部主事 塚田）